「世界的視野から見た今後の武道学の課題」要約

Future issues of Budo from the viewpoint of a global perspective

Summary of Discussion

・日本武道の鳥瞰図にみる歴史的経緯は理解できるが、この先どうなっていくのかに興味がある。欧州では、日本武道の伝統を守ろうとはしない。現代の欧州社会において何が有効か、利用できるのかを常に考えている。それ故に、空手や合気道は護身術と直結してしまう。
「武道をやったら〇〇が良くなる」というように、武道を実践するうえでの具体的な理由がほしい。科学的の根拠を示してほしい。そういった意味では、今回の調査研究「現代武道における教育効果について」は、欧州のデマンドに対応している。
欧州では、日本で武道は成功していると思っている。そのまま持ってきて使える、効果があると期待している。

・現在、ハンガリーにおける青少年教育において、健康問題への危惧から学校体育の導入が考えられており、体育の内容として空手などの武道に期待がよせられている。国立体育大学などにおける指導者の養成が急務であるが、大学関係者は競技空手ではなく日本的精神性を強くもつ伝統空手に期待している。

・2007年にハンガリーの地方自治開発省スポーツ局が、日本武道を青少年の道徳教育に役立てようというプロジェクトを展開し、その後計画が頓挫したが、最近になってまたこの機運が高まっている

・日本で一定期間修行した欧州人にとっては、日本の雰囲気をそのまま欧州に伝えたいという願望がある。欧州にないものとして武道の精神性をあげ、具体的に呼吸や気、修行の考え方、道場の雰囲気（空気）をあげており、これらをクールであると感じている。

・日本において短期間ではあるが寒稽古を経験した子供の親は、あらゆる面で教育的効果があったと考えている。
欧州において武道は、しつけ、礼儀、人間関係、これらの日常生活への応用、において優れていると考えられている。これは欧州のプロスポーツにはないものである。

・日欧で教育システムに大きな違いがあり、日本武道の「段階的な教育システム」は欧州にはないものであると指摘している。日本においては、小学生には小学校の先生や道場の先生が指導し、中学生になれば中学校の先生が、高校生になれば高等学校の先生、大学生には大学の先生が指導するというように、各教育段階、成長段階に応じた先生に渡していくような形の教育システムが確立している。各成長段階に即した教育方法があるはずで、欧州の場合はずっと一つのクラブで教えるため、うまくいっていない。東欧においては、「段階的生涯武道」システムの導入が必要である。